

第7回佐伯図書館未来構想協議会・報告書

開催日時：令和6年3月13日 午後2時～

開催場所：教育委員会「まな美」3階多目的ホール

委員：出席・・桑門 超 田中 淳子
長野 雅樹 張 凱勳 御手洗 慎太郎
山本 智子 水本 陽子
河野 美紀

欠席・・金 成妍 檜垣 伸晶

事務局等：教育部長 久々宮克也

社会教育課

課長 丸山純一 戸高直人 首藤幸一郎 吉岡千鶴

政策企画課

課長 末永健二

佐伯図書館

館長 三原容子 ナカバヤシ株式会社 石水啓介

内容：佐伯図書館の理念及び指針について

※別冊 これからの佐伯図書館の在り方（素案）

- 意見等：○協議会の経過の部分で、すべての協議会を簡単にまとめた表にして最初に掲載し、その後に協議会ごとの詳しい内容がわかるようにすると、初めて見る人でも見やすいのでは。
- どうして佐伯図書館を新たに考える必要があるのかという背景や問題提起をもっと膨らませた方が良いのでは。
- 「都城市立図書館や鹿児島市立天文館図書館では」という標記が2カ所ほどあるが、あたかも2館が唯一のモデルであるかのような印象になるので、変えた方が良いのでは。
- この基本理念はいいとは思いますが、もしこの先市民向けに発信していくのであれば、指針のダイバーシティとかインクルージョンっていう言葉は無い方が意味は伝わると思う。親しみやすいような文章の方が伝わりやすいのでは。
- 指針の「いつでもどこでも本に出会える佐伯図書館」、その下にある文面が、あまり一致してない。また、後に記載している説明文も、なかなか一致する内容がないので、いつでもどこでも本に出会えるということは、未来の図書館像を想像しながら情報技術を取り入れて、例えばまるで目の前に本があるように iPad で見れるような、そういったことも含めて、図書館機能、また読書機能を ICT 化していく。さらにすごく貴重な歴史のある文献にしてもアーカイブ化すれば読めるので（湿気とかを気にせずに）。佐伯市が持っている貴重な財産も掘り起こして、誰でもが読める状態を作る。これがおそらく未来の図書館なのかなと思う。そういったところが入ってきてこのいつでもどこでも本に出会える佐伯図書館となるのでは。

佐伯図書館にないものでも、他の図書館とつないで電子書籍が読めるとかかっていうそういうような、未来の姿も想像していいのでは。そういったところを少し変更していってもらえるといいではと思う。

- 29ページのワンペーパーに示している言葉というのを説明するために、その説明文があるので、この説明文にいろんな例を入れて、少しでもわかりやすくしていく必要がある。
- 2番目の「人と人が繋がり」という部分に、防災だけではなくセーフティネットだとか、学び直しにも、図書館は使えるんだよと言うように包含していくことができるのでは。
- 「佐伯を愛し」の部分では、佐伯の文化や歴史の内容も含めて、地域を愛して欲しいというように持っていけるのでは。
- 後ろの説明の中に委員からいただいた意見とかをうまく入れ、説得力が増すような資料になれば良い。

- ま と め：①本日の委員の皆さんの意見を「基本理念と指針」に反映させて、もう一度、案を示す。その後、意見などはメールなどでやり取りさせていただきまとめて、次回の協議会の冒頭で「基本理念と指針」を決定する。
- ②委員の皆さんの任期は今月31日で終了するため、来年度引き続き委員として教育委員会で選任させていただく。
 - ③来年度の協議内容は、決定した「基本理念と指針」に基づき、佐伯図書館の具体的な機能やサービス等を検討する。
 - ④次回協議会の開催時期は、5月の連休明けに設定することにし、日程調整をメールでさせていただく。